

平成21年度 十日町市消防団 十日町方面隊 春季消防演習

日時 平成21年6月7日(日) 午前7時30分～11時50分

場所 十日町市信濃川水辺の楽校つまりっ子ひろば(雨天決行)

参加人員 十日町市消防団 団本部 23名
十日町市消防団 十日町方面隊 1,014名
十日町地域消防本部・署 27名

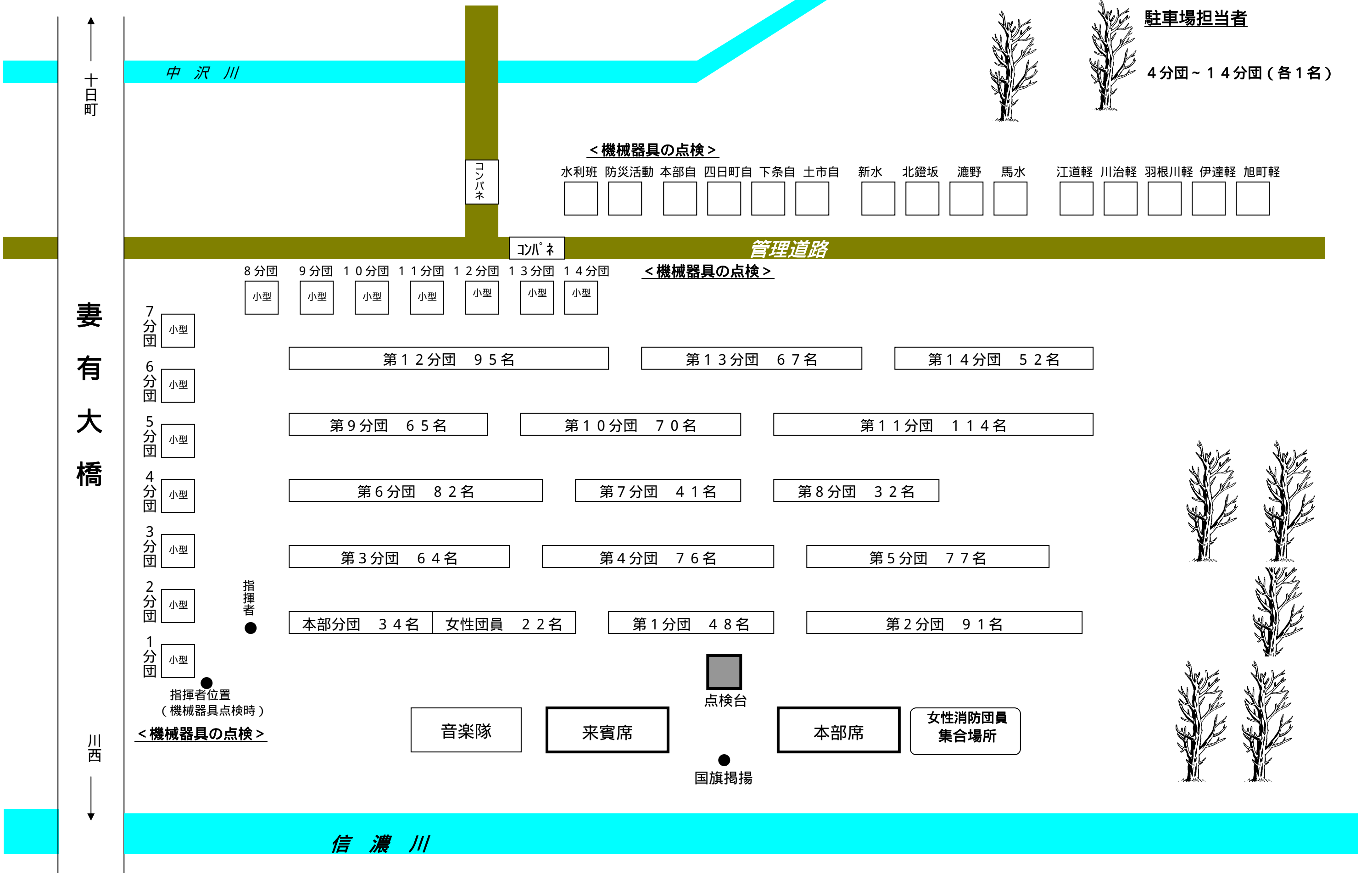
参加ポンプ 十日町方面隊：自動車ポンプ車 4台
水利資器材搬送車 1台
防災活動車(旧防火幕車) 1台
小型動力ポンプ付積載車 9台
小型動力ポンプ 14台

日程及び実施事項

実施事項	開始時間	進 行 内 容	指揮者
点 鐘	7:00	分団ごとに演習召集信号を打鐘	
集 合	7:30	別紙第1図のとおり小隊編成を実施して大隊隊形で集合し、 分団長は出動人員を報告する。 点検者:十日町市長 統監部:消防団長・方面隊長・消防長・次長・署長 総務課長・予防課長 総務進行:総務課長補佐	児玉方面隊長
開 式	7:50	開式宣言:徳永副方面隊長	
方面隊長入場		方面隊長に敬礼	ラッパ吹奏 裾澤副方面隊長
消防団長入場		消防団長に敬礼	ラッパ吹奏 "
団 旗 入 場		団旗に敬礼	ラッパ吹奏 "
消 防 長 入 場		消防長に敬礼	ラッパ吹奏 "
点 検 者 入 場		点検者に敬礼	ラッパ吹奏 児玉方面隊長 (人員報告)
国 旗 掲 揚		国旗に敬礼	ラッパ吹奏 裾澤副方面隊長
人員・姿勢・ 服装の点検	8:00	別紙第1図の集合隊形(雨天状況により中止)	福崎訓練部長
機械器具の点検	8:30	別紙第1図の隊形	矢口技術部長
【 休 憩 】	8:50	10分間	

実施事項	開始時間	進 行 内 容	指揮者
水 防 訓 練	9:00	別紙第2図 詳細別紙1 点検者:児玉方面隊長	福崎訓練部長
中継送水訓練	10:00	別紙第3図 詳細別紙2 点検者:児玉方面隊長	矢口技術部長 (訓練・予防部長)
【 休 憩 】	10:30	10分間	
分 列 行 進	10:40	別紙第4図	梶澤副方面隊長
表 彰 式 及 び 講 評 訓 示	11:10	別紙第5図の隊形	渡部予防部長
君が代斉唱		伴奏:十日町市民吹奏楽団	〃
講 評		消防長	〃
訓 示		十日町市長・消防団長	
表 彰 伝 達			〃
来 賓 祝 辞		県議会議員・市議会議長・警察署長	〃
国 旗 降 納		国旗に敬礼	ラッパ吹奏 〃
閉 式		閉式宣言:徳永副方面隊長	
解 散	11:50		〃

< 集合・ポンプ位置、人員・姿勢・服装並びに機械器具の点検体系図 >



駐車場担当者

4分団~14分団(各1名)

< 機械器具の点検 >

水利班 防災活動 本部自 四日町自 下条自 土市自 新水 北鐙坂 澁野 馬水 江道軽 川治軽 羽根川軽 伊達軽 旭町軽

< 機械器具の点検 >

8分団 9分団 10分団 11分団 12分団 13分団 14分団
 小型 小型 小型 小型 小型 小型 小型

第12分団 95名 第13分団 67名 第14分団 52名

第9分団 65名 第10分団 70名 第11分団 114名

第6分団 82名 第7分団 41名 第8分団 32名

第3分団 64名 第4分団 76名 第5分団 77名

本部分団 34名 女性団員 22名 第1分団 48名 第2分団 91名

指揮者位置
 (機械器具点検時)
 < 機械器具の点検 >

音楽隊 来賓席 本部席 女性消防団員 集合場所

点検台
 国旗掲揚

信濃川

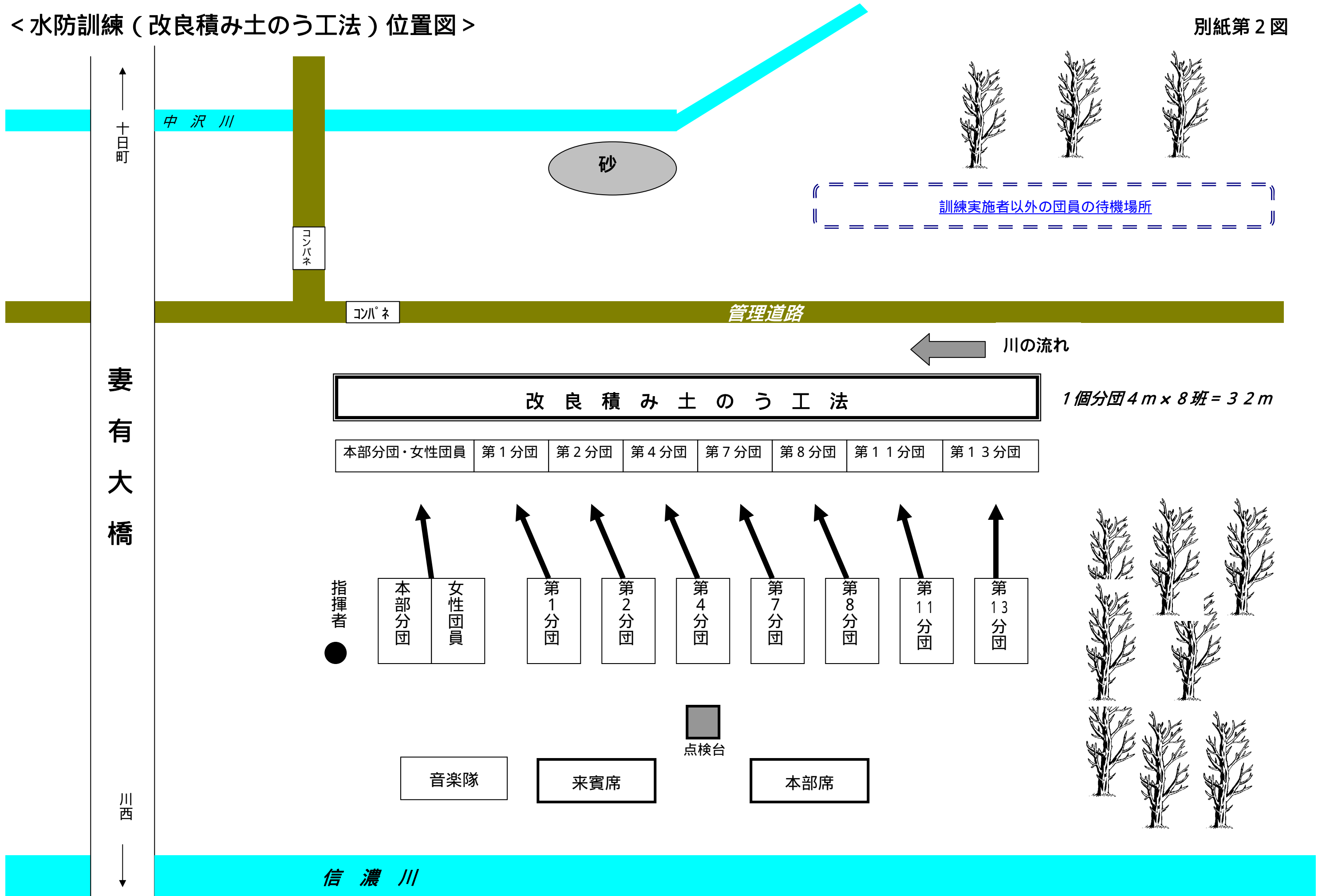
妻有大桥

十日町

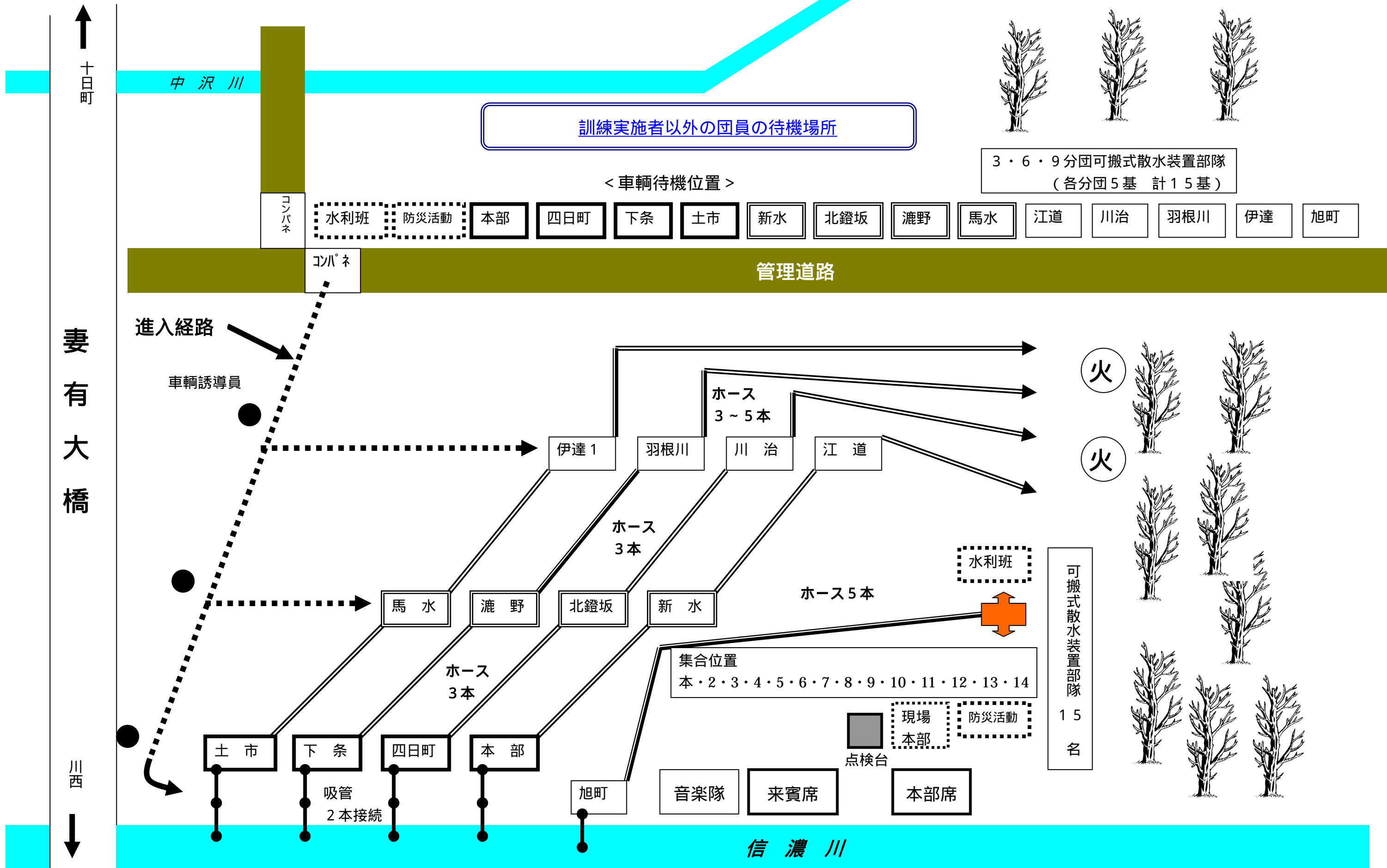
川西

< 水防訓練（改良積み土のう工法）位置図 >

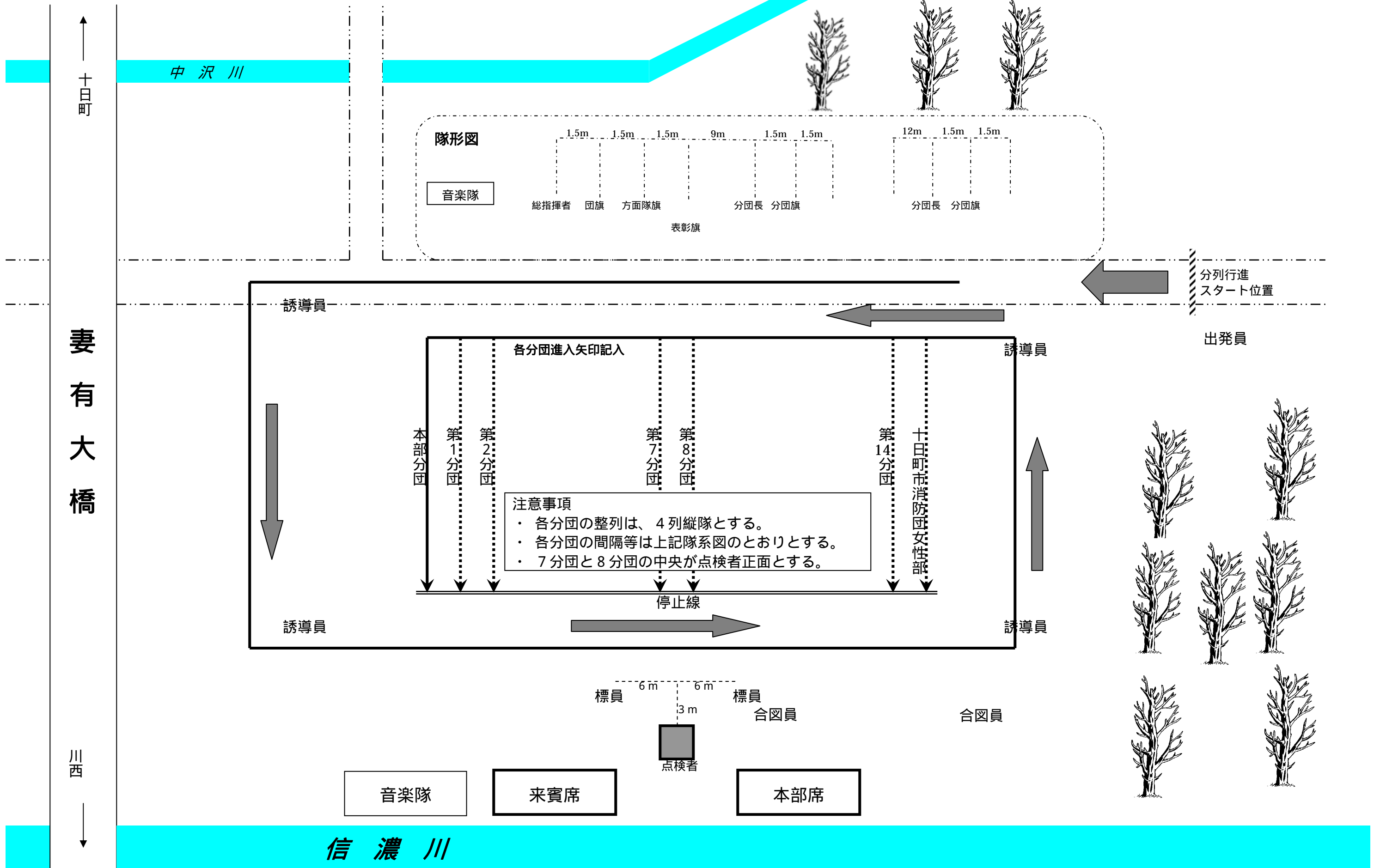
別紙第2図



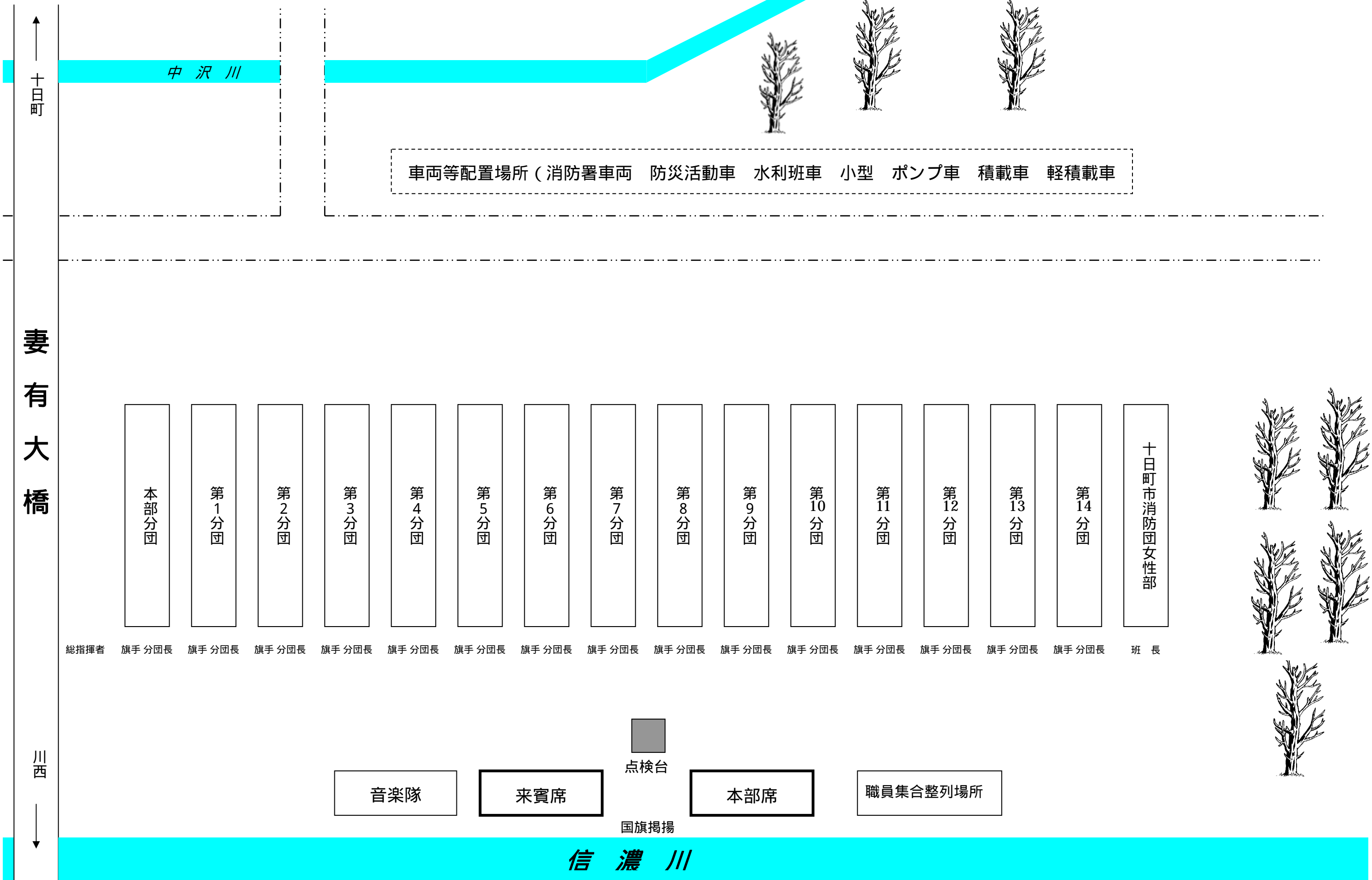
< 中継送水訓練位置図 >



< 分列行進順路及び集合隊形図 >



< 講評・訓示・表彰伝達隊形図 >



演習時のポンプ車、積載車の機械器具点検要領(エンジン始動)実施について

- 1 各番員の定位置については別図のとおり
- 2 点検、無線交信については以下のとおり

ポンプ車点検

- 分隊長 車前にて点検実施状況の全体の監視をする。
- 1 番員 開局し車載無線位置にて、本部又は現場本部と無線交信状況の確認をする。
 - 2 番員 車両後部にて資機材の点検。
 - 3 番員 車両後部にて資機材の点検。
 - 4 番員 運転席にてエンジン始動しモーターサイレン・赤色灯を始動点検する。

積載車点検

- 分隊長 車前にて点検実施状況の全体の監視をする。
- 1 番員 開局し車載無線位置にて、本部又は現場本部と無線交信状況の確認をする。
 - 2 番員 車両後部にて資機材の点検。
 - 3 番員 運転席にてエンジン始動しモーターサイレン・赤色灯を始動点検する。

無線テスト交信要領

演習本部 「演習本部から十日町方面隊各車両、これより無線テスト交信を行う。
各局とも感度を送れ。」

演習本部 「水利班どうぞ。」(演習本部が車両を呼び出していく)

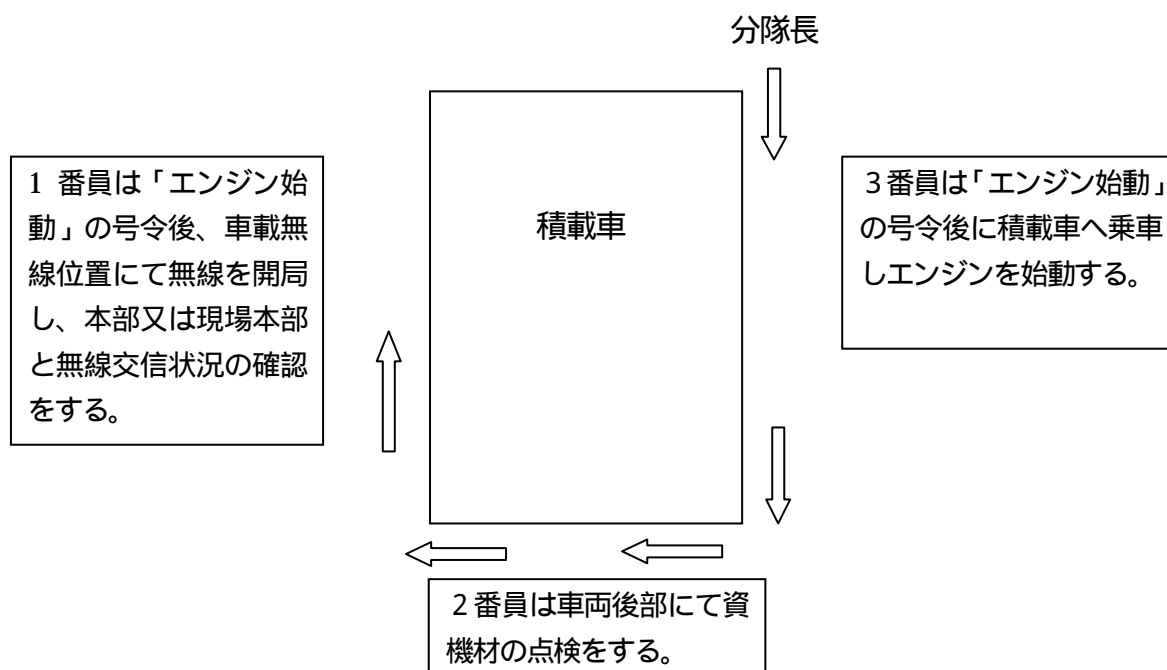
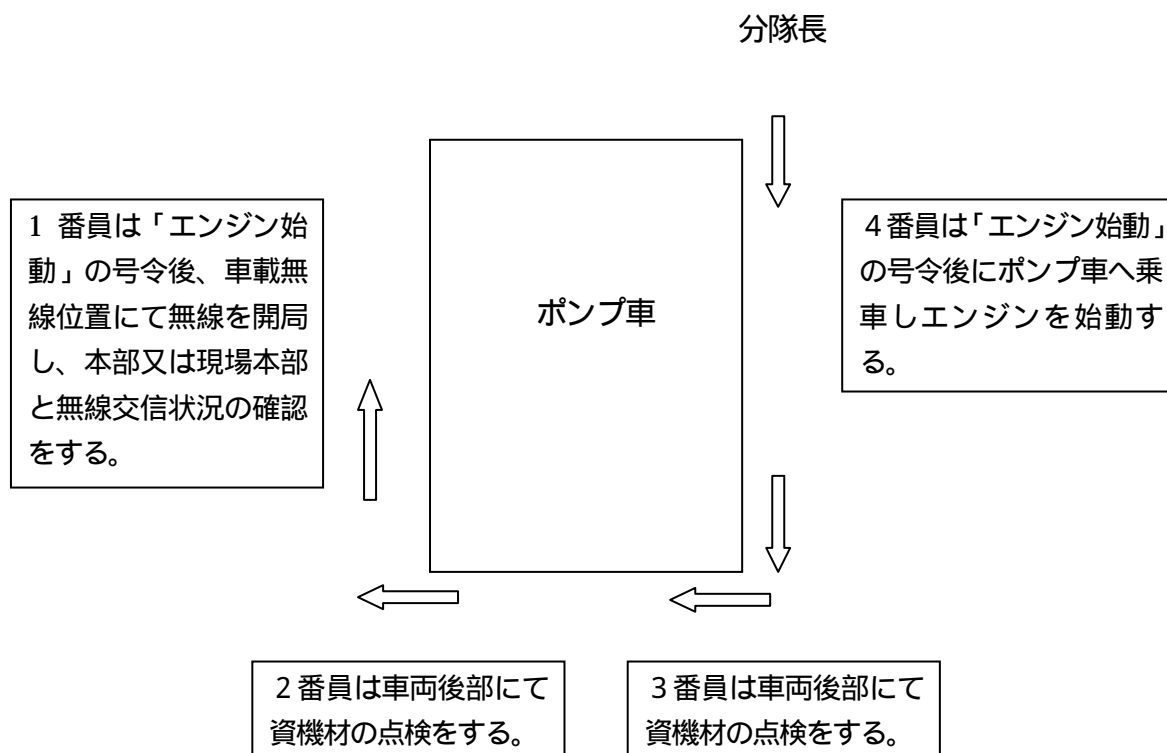
【呼出順序】

水利班・防災活動・本部自・四日町自・下条自・土市自・江道積・川治積・
新水積・羽根川積・鍍坂積・澁野積・馬水積、・伊達積・中条旭町積

各車両 「こちら水利班、メリット で入感。」(感度良好の場合メリット5)
(演習本部からの「了解」は無線テスト交信最終車両終了時に一括で行う。)

演習本部 「防災活動車どうぞ。」(順次、呼び出し応答していく)

演習本部 「演習本部の感度は各局ともメリット で入感、以上演習本部。」

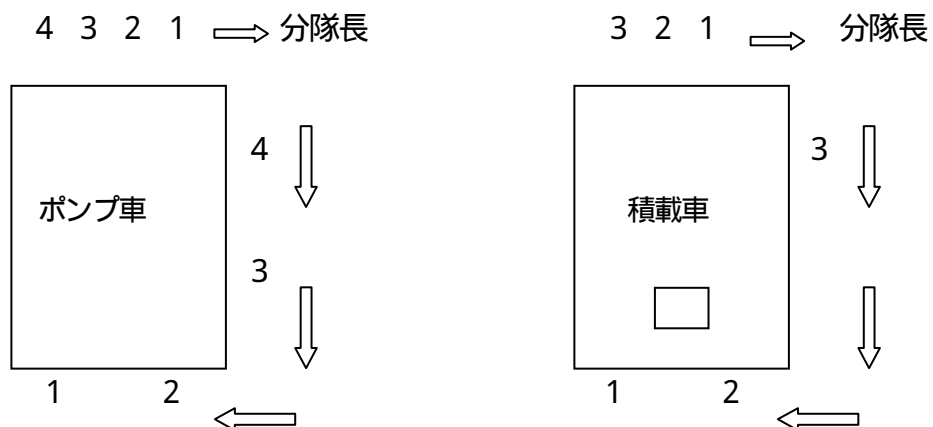


機械器具点検要領（エンジン始動）

	指揮者の号令	分隊長の位置号令	隊員位置
1	隊の中央で指揮しやすい位置	指揮者の号令前は、車後 2m の位置に整列休めで待機。	同左
2	「集まれ」 (隊の中央)	「集まれ」の号令で基本の姿勢をとり隊員に頭を向けて「気をつけ」「右向け右」「車前に進め」と号令し、隊員の先頭にたつて駆け足で車前（2m）に進み基本の姿勢をとる。	分隊長の号令で車前に進み基本の姿勢をとる。（自主整頓）
3	「基準分隊にならえ」 (隊の中央)	基準分隊長は、頭のみ左に向け整頓線に入れ整列を完成させる。 他の分隊長は腰に手をとることなく頭のみ右向け。	1 番員は腰に手をとることなく頭のみ右向け。 他の番員は右ならえの要領で整頓
4	「なおれ」	指揮者の「なおれ」の号令で一斉に正面を向く。	同左
5	「整列一休み」	指揮者の「整列一休み」の号令で一斉に整列休めの姿勢をとる。	同左
6	「気をつけ」 「点検者に頭一中」 (隊の最右よく位置)	分隊長は足を動かさず挙手注目の敬礼をする。	隊員は足を動かさず頭のみ点検者に向ける。
7	「なおれ」(隊の最右よく位置)	分隊長は一斉に正面を向く。	一斉に正面を向く。
8	「ただ今から機械器具の点検を願います。」 (点検者前方 5m の位置)		
9	「番号」 (点検者の左 1.5m の位置)	分隊長は正面を向いたまま。	隊ごとに「1」「2」「3」と呼称。
10	「定位置につけ」 (点検者の左 1.5m の位置)	分隊長は正面を向いたまま。 分 定位置	隊員は右向けをし、 一列縦隊となり、駆け足で定位置に進みポンプに面するようまわり込み停止する。（自主整頓）
11	右手を垂直に上げて「エンジン始動」 (点検者の左 1.5m の位置)	指揮者の号令を確認したら、度の深い左向けをしポンプ方向に面して、右手を垂直に上げて「エンジン始動」と号令。 エンジン始動が完了したら、度の深い右向けをして正面を向く。	隊員は分隊長の指示によりエンジン始動器材点検する。
12	右手を横水平に上げて「エンジン停止」 (点検者の左 1.5m の位置)	指揮者の号令を確認したら、度の深い左向けをし、ポンプ方向に面して、右手を横水平に上げて「エンジン停止」と号令。 エンジン停止が完了したら、その位置で「よし」と号令し車後(2m)に移動し整列休めの姿勢をとる。	隊員は担当箇所を点検後、分隊長の「よし」の合図で車後(2m)に移動し整列休めの姿勢をとる。 (自主整頓)

13	「車前に一進め」(隊の中央)	分隊長は基本の姿勢をとり隊員に頭を向けて「気をつけ」「右向け右」「車前に進め」と号令し、隊員の先頭に立って駆け足で車前(2m)に進み基本の姿勢をとる。	分隊長の号令で車前の位置に進み基本の姿勢をとる。 (自主整頓)
14	(隊の中央)	分隊長は1歩前進し度の深い左向けで隊員に面し「点検報告」と号令、隊員の報告毎に「よし」と受けた後、半ば左向けをし、1歩前進しまわれ右をして基本の姿勢をとる。	隊員は「点検報告」の号令で1番員から順に分隊長に正対し「番員異常なし」と報告し正面を向く。
15	「各分隊長点検報告」 (隊の中央) 指揮者は分隊長からの報告の際は、上体のみ向けて敬礼し「よし」と応答し答礼はせず次の分隊長の報告を受ける。	各分隊長は指揮者の号令で最右よく分隊長から指揮者に正対し挙手注目の敬礼をし、「第分団 (地区名) 人員機械器具異常なし」と報告し挙手注目の敬礼をした後正面を向く。	
16	「点検終了しました」 (点検者前方5mの位置)		
17	「点検者に頭一中」 (隊の最右よく位置)	分隊長は足を動かさず挙手注目の敬礼をする。	隊員は足を動かさず頭のみ点検者に向ける。
18	「なおれ」(隊の最右よく位置)	分隊長は一斉に正面を向く。	一斉に正面を向く。
19	「解散」 (隊の中央)	最右よく分隊長の号令で「総指揮者に頭一中」「なおれ」(各分隊長は挙手注目の敬礼)の号令で正面を向く。	隊員は足を動かさず頭のみ総指揮者に向ける。
		分隊長は頭を隊員に向け「右向け右」と号令し、その後左向けをして「車後に進め」の号令をした後、隊員が駆け足で進んだらポンプ前(2m)中央の位置に進みポンプに面して「わかれ」で終了する。 ポンプ自動車、積載車は車の後部左で「わかれ」の号令をかける。	隊員は右向けをし、一列縦隊となり駆け足で定位置に進み、ポンプに面するようまわり込み停止し(自主整頓)「わかれ」で分隊長に敬礼。

車両定位置



【訓練概要】

水害を想定とした水防訓練を実施。

【訓練実施要領】

1 訓練想定

豪雨により、信濃川が増水し、右岸のつまりっこ広場に越水のおそれが生じたため、これを防止する。

2 工法実施要領

- (1) 改良積み土のう工法を実施。各分団の土のう積みは接続し、1線となるよう実施する。
- (2) 上流側からシートを設置し、シートの重複部分はシートはとめ1個分とする。
- (3) 下流側のシートを上流側シートの上に重ねて設置する。
- (4) 1個分団の土のう積み範囲はシート重なり部分までとし、各分団の土のう積みは隙間なくする。
- (5) 土のう作成及び搬送は全団員協力して実施する。
- (6) 土のう積みが完了したら、下流側から順次シートを土のうに巻いていき、上流側のシートを折り返し、土のうにかける。
- (7) 重し土のうを各分団4個シートの上に置き、完成とする。

3 実施場所

別紙2図のとおり

4 訓練実施分団

本部・1・2・4・7・8・11・13分団が一斉に行う。訓練参加団員数については各班20名とする。(本部分団に女性消防団員を含む。)

分担	班長：1名、シート取付・土のう積み：4名、鋼杭打ち・土のう運搬6名、土のう作成：9名
----	--

訓練実施分団の団員は土のう搬送に協力する。

5 訓練資機材等

ブルーシート、鉄杭、結束線、スリング、大ハンマー、土のう袋、スコップ、砂、一輪車

6 服装等

訓練実施者の服装は作業服、編み上げ訓練靴、ヘルメット、手袋とする。

7 出場等の要領

出場から退場の要領は、「水防訓練の総指揮者・班長の行動と号令」のとおりとする。

水防訓練の総指揮者・班長の行動と号令

区 分	指揮者の位置・号令	班長の位置・号令	団員等位置
集 合	班長の右翼1.5mに位置する。	「 分団2列縦隊に集まれ」 「 団本部2列縦隊に集まれ」 班の右翼1.5mに位置する。	2列縦隊に整列する。
点検者入場	右翼の指揮者 「気をつけ」 「点検者に頭中」「直れ」	挙手注目の敬礼	団員は頭を点検者に向け注目。
開 始 申 告	点検者前方5mに進み 「只今から改良積み土のう工法を開始します。」 申告後、隊の中央に移動。		
開 始	隊の中央で「只今から改良積み土のう工法を実施する。」 「各分団は所定の位置につけ」	「駆け足進め」の号令後、隊の先頭にたち訓練位置に進む。「左向けとまれ」の号令で2列横隊に整列 団員の右翼1.5m。	駆け足で訓練位置に進み、2列横隊に整列する。
訓 練 開 始	「直ちに訓練を開始」 隊の中央	「訓練開始」「わかれ」 訓練が終了したら2列横隊に整列させ集合時の位置に移動させる。	訓練を開始する。 訓練が終了したら2列横隊に整列し集合時の位置に移動する。
現 場 視 察	来賓が訓練状況を視察する。		
訓 練 終 了	隊の中央にて各分団から終了申告を受ける。 挙手注目の敬礼は報告時のみ、答礼なし。	その場で敬礼し「 分団改良積み土のう工法終了しました。」と報告する。	集合時の隊形に整列
終 了 申 告	点検者前方5mに進み、「改良積み土のう工法完了しました。」と報告 右翼班長の1.5m		
点検者退場	「点検者に頭 中」「直れ」	挙手注目の敬礼	団員は頭を点検者に向け注目。
解 散	隊の中央「解散」	右翼班長は「指揮者に頭中」「直れ」 挙手注目の敬礼 1歩前を出て左に向きを変えて「資器材撤収、わかれ」	団員は頭を指揮者に向け注目。 団員は指揮者に正対し、敬礼。

【訓練概要】

水利から離れた火災現場を想定とした中継送水訓練を実施。

【訓練実施要領】

1 訓練想定

つまりっこひろば隣の信濃川河川敷内にて林野火災が発生。現場から水利まで遠距離のため、信濃川から自動車ポンプにて吸水し、積載車の小型ポンプに中継送水。さらに軽積載車に中継送水し、火点に放水する。また可搬式散水装置を焼き止まり部分に配備し、延焼防止を図る。可搬式散水装置の水補給にあっては軽積載車の小型ポンプを配備し、信濃川から吸水し、これにあたる。

2 訓練実施要領

元ポンプに自動車ポンプ、中ポンプに積載車、先ポンプに軽積載車を配置し、3台による中継送水を行う。放水は噴霧注水、棒状注水、直上注水を使い分ける。

3 実施場所

別紙2図のとおり

4 訓練実施車輛及び内容

(1) 自動車ポンプ車(元ポンプ)

待機位置より、水利部署位置(信濃川直近)に進行し、機関員・補助員にて信濃川に吸管投入(2本接続)し、吸水。隊員3名は手びろめによる二重巻ホース1線延長。

(各線ともホース3本)積載車ポンプに中継する。

中継先は本部~新水、四日町~北鐙坂、下条~澁野、土市~馬水とする。

元ポンプ圧力は0.5MPaとする。

撤収はホースにあっては1重巻、吸管は排水処理し、元の位置に収納。車輛を待機位置に移動し、完了とする。

(2) 積載車(中ポンプ)

待機位置より、中継位置(会場中央)に進行し、小型ポンプを車輛から降ろし、機関員はエンジン始動し、吸口に媒介金具を取付。隊員3名は手びろめによる二重巻ホース1線延長。

(各線ともホース3本)軽積載車ポンプに中継する。

中継先は新水~江道、北鐙坂~川治、澁野~羽根川、馬水~伊達とする。

機関員は連成計を注視し、負圧に注意する。

撤収はホースにあっては1重巻、小型ポンプとともに車輛に積載し、待機位置に移動し、完了とする。

(3) 軽積載車(先ポンプ)

待機位置より、火点付近(会場道路側)に進行し、小型ポンプを車輛から降ろし、機関員はエンジン始動し、吸口に媒介金具を取付。隊員3名は手びろめによる二重巻ホース1線延長。(各線ともホース3~5本)うち1名は第3ホースに管鎗を結合し、余裕ホースをとり、放水姿勢をとる。放水長1名。補助員2名。

状況に応じ、火点に向って噴霧・棒状・直上放水とする。

機関員は連成計を注視し、負圧に注意する。

撤収はホースにあっては1重巻、小型ポンプとともに車輛に積載し、待機位置に移動し、完了とする。

(4) 可搬式散水装置部隊(小型ポンプ)

軽積載車は待機位置より、水利部署位置(信濃川直近)に進行し、信濃川まで小型ポンプ搬送し、吸水。現場直近までホース展張し、可搬式散水装置補給装置に接続する。可搬式散水装置部隊はこれより、補給し、焼き止まり部分の延焼防止にあたる。

5 服装等

- ・ 消防作業服・ヘルメット・編み上げ訓練靴(支給品)及び手袋を着用。
- ・ 筒先員にあっては防火衣・防火ヘルメット着用。

【訓練の注意事項】

- 1 エンジンを始動し、吸水するため、放水できない事がないよう事前訓練を実施すること。
- 2 元ポンプ圧力を0.5MPa(5kgf/cm²)以内とする。損傷防止のため中継ポンプは放口を半開しておくこと。
- 3 筒先を担当する団員は急激な送水にも対処できるよう筒先を確実に保持すること。
- 4 使用ホースは訓練用のものではなく、必ず現場用のホースを使用すること。
- 5 会場は足元が不安定のため、走る際は捻挫等しないよう十分注意すること。
- 6 中継ポンプの始動ができない場合は、そのまま中継ホースを結合し、最後の点検報告時「エンジン不調のため始動不可能、他異常なし」と報告する。
- 7 職員が危険と判断し、停止を命じた場合それに従うこと。
- 8 出場する団員以外は所定の場所で見学をする。
- 9 休憩時間以外はすべての場所で禁煙とする。

< 中継送水の操作要領 >

H21十日町方面隊春季消防演習

1 放水はじめ

【先ポンプ】 軽積載車

- (1) 真空ポンプレバーは、放水の位置におく。先ポンプの場合、真空ポンプは不要である。
- (2) 放口コックは、小開きにしておく。元ポンプから急激な送水があった場合、先ポンプに大きな水圧がかかってポンプの故障等の原因となるため、その水圧開放のためである。
- (3) エンジンを始動し、低速回転にする。
水が送られてきてからのエンジン始動では、それだけで放水が遅れ、高速回転ではエンジンの過熱及び筒先からの高圧送水を避けるため。
- (4) ホースを延長し、放水体勢をとる。
- (5) ホース延長を機関員に報告後、【中ポンプ】へ送水開始の伝令を行う。
- (6) 送水を受け、各計器の作動を確認後、放口コックを全開する。
- (7) 元ポンプからの送水が落ちついたら徐々にポンプ圧力を上げて調整する。
連成計は0.05 Mpaに指度させる。
- (8) 放水完了後、現場本部に「放水完了」の報告に行き、その場で待機する。

【中ポンプ】 積載車

- (1) 真空ポンプレバーは、放水の位置におく。先ポンプの場合、真空ポンプは不要である。
- (2) 放口コックは、小開きにしておく。
元ポンプから急激な送水があった場合、先ポンプに大きな水圧がかかってポンプの故障等の原因となるため、その水圧開放のためである。
- (3) エンジンを始動し、低速回転にする。
水が送られてきてからのエンジン始動ではそれだけで放水が遅れ、高速回転ではエンジンの過熱及び筒先からの高圧送水を避けるため。
- (4) ホースを延長し、ポンプ吸口に結合する。
- (5) ホース延長を機関員に報告後、【元ポンプ】へ送水開始の伝令を行う。
- (6) 送水を受け、各計器の作動を確認後、放口コックを全開する。
- (7) 元ポンプからの送水が落ちついたら徐々にポンプ圧力を上げて調整する。
連成計は0.05 Mpaに指度させる。
- (8) 放水完了後、現場本部に「放水完了」の報告に行き、その場で待機する。

【元ポンプ】 自動車ポンプ

- (1) エンジンを始動。真空ポンプを作動し、予め吸水する。
- (2) ホースを延長し、機関員に報告する。
- (3) 【中ポンプ】からの送水開始の伝令が来たら、徐々にポンプ圧力を上げて放水を開始する。ポンプ圧力は0.5 MPaとする。急激な送水はしない。
- (4) 放水完了後、現場本部に「放水完了」の報告に行き、その場で待機する。

2 放水やめ

【先ポンプ】

- (1) 「放水やめ」の伝令が来たら、エンジン回転を低速にし、ポンプ圧力を下げる。エンジンの停止は、【中ポンプ】の送水停止及びエンジンの停止を確認したうえで実施する。
- (2) ポンプ位置付近で現場本部方向に1列横隊に整列後、集合位置に集まる。

【中ポンプ】

- (1) 「放水やめ」の伝令が来たら、エンジン回転を低速にし、ポンプ圧力を下げる。エンジンの停止は、【元ポンプ】の送水停止及びエンジンの停止を確認したうえで実施する。
- (2) ポンプ位置付近で現場本部方向に1列横隊に整列後、集合位置に集まる。

【元ポンプ】

- (1) 「放水やめ」の伝令が来たら、エンジン回転を低速にし、エンジンを停止する。
- (2) ポンプ位置付近で現場本部方向に1列横隊に整列後、集合位置に集まる。

中継放水時の注意事項

- (1) 放水はじめは元ポンプから実施し、放水やめの操作は伝令後、元ポンプから実施する。その際に先ポンプは自分のポンプより元ポンプの送水圧がホース内に残っているため、放口は小開(全開しない)にし、スロットルは最低速にし、ホース内の残圧を開放した後、放口の全閉及びエンジンの停止を行う。
- (2) 元・中・先ポンプにかかわらず、急激な送水及び止水はしない。

中継送水訓練の総指揮者・班長の行動と号令

区 分	指揮者の位置・号令	班長の位置・号令	団員等位置
集 合	班長の右翼1.5mに位置する	点検台前 「分団1列縦隊に集まれ」 班の右翼1.5mに位置する。	点検台前 1列縦隊に整列する。
点検者入場	右翼の指揮者 「気をつけ」 「点検者に頭一中」「直れ」	拳手注目の敬礼	団員は頭を点検者に向け注目。
開 始 申 告	点検者前方5mに進み 「只今から中継送水訓練を開始します。」 申告後、隊の中央に移動。		
待機位置集合	隊の中央で「只今から中継送水訓練を実施する。」 「各班は待機位置につけ」	「駆け足進め」の号令後、隊の先頭にたち待機位置に進む。 「左向けとまれ」の号令で1列横隊に整列させる。 整列完了後、「乗車」の号令で乗車させる。	駆け足で待機位置に進み、1列横隊に整列する。班長の「乗車」の号令で乗車する。
訓 練 開 始 出 動 指 令	本部席にて放送 「つまりっこ広場脇の河川敷にて林野火災が発生。ポンプ隊は中継体系をとり、鎮圧にあたれ。可搬式散水装置部隊は焼き止り部分の延焼防止にあたれ。」	各隊の部署位置に車輛を誘導し、隊員に行動を指示し、訓練を開始する。	部署位置に到着後、班長指示のもと訓練を開始する。
放水はじめ		別紙<中継送水の操作要領>のとおり	
放水完了報告	各班からの完了報告を受ける。	別紙<中継送水の操作要領>のとおり	
現 場 視 察	来賓が訓練状況を視察する。		
放 水 や め	現場本部から「放水やめ」の伝令を出す。	別紙<中継送水の操作要領>のとおり	
訓 練 終 了	隊の中央にて各分団から終了申告を受ける。 拳手注目の敬礼は報告時のみ、答礼なし。	集合位置に集まり、敬礼し「分団中継送水訓練終了しました。」と報告する。	集合時の隊形に整列
終 了 申 告	点検者前方5mに進み、「中継送水訓練完了しました。」と報告		
点検者退場	「点検者に頭一中」「直れ」	拳手注目の敬礼	団員は頭を点検者に向け注目。
撤 収 開 始	現場本部で「撤収開始」	「撤収開始」と号令し、隊員と協力し、撤収する。完了後、車輛を元の位置に移動指示する。	吸管・ホース等を撤収し、完了後、車輛を元の位置に移動する。
解 散	待機位置にて隊の中央「解散」	右翼班長は「指揮者に頭一中」「直れ」 拳手注目の敬礼 1歩前に出て左に向きを変えて「わかれ」	団員は頭を指揮者に向け注目。 団員は指揮者に正対し、敬礼。